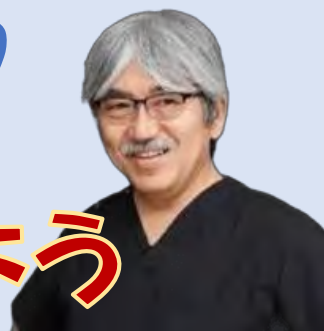
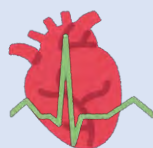




不整脈IQを鍛えよう

～ しっかり治療を必要とする頻脈徐脈症候群（TBS） ～

突然ですが、アダムスストークス症候群という、名前の難しい病気についてお話しします。今から200年も前にアイランドのアダムス先生とストークス先生が報告した症候群で、不整脈で引き起こされるめまい・失神・けいれんなど一過性の脳虚血症状のことを言います。不整脈を見つけれず原因不明の失神でした。何度も失神を繰り返してようやく徐脈がわかって診断がつけました。その間には患者さんにとって不慮の死亡などいろいろな悲劇もあつたでしょう。今では植え込み型心電計で見つけられます。

アダムスストークス症候群を引き起こす不整脈としては徐脈と頻脈がありま
すが、徐脈としては洞機能不全・房室
ブロック、そして頻脈と徐脈の両方が
一連の流れで出現して失神を来す不整
脈があります。頻脈では命に関わる
「心室頻拍、心室細動」です。これら
命に関わる不整脈についても今後触れ
る予定です。

前回、洞機能不全状態について会社
で例えると社長経営陣の身勝手な管
理放棄状態と書きました。洞機能不
全は心臓の脈が出なくなる状態で、
大きく3種類のパターンがあります。

脈が常に遅いままの、いわゆる経営
陣に常にやる気のない怠惰な状態で、
患者さんには自覚症状がないことが
多くて徐々に足や顔のむくんでくる、
いわゆる慢性心不全状態。この状態
では失神することはないのですが、
洞房ブロック・洞停止と呼ばれる突
然数秒以上の一時的心停止状態で意
識消失を来します。5秒間の心拍停
止で失神、5秒間になるとけいれん
発作になります。この心電図記録を
確認したら、ペースメーカー植え込
みしなければなりません。
さらにペースメーカー植え込みを検
討しなければならぬ不整脈として、
頻脈徐脈症候群があります。英語名
の頭文字をとって「TBS」といいます。
どこかのテレビ局みたいですがしっ
かり治療を必要とする不整脈です。